

令和5年度

沼島市立東小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】

学校教育目標	◎よく考える子 ◎思いやりのある子 ◎健康で明るい子	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	○子供たちが、安全・安心に楽しく過ごせる学校 ○家庭・地域と共にある学校 ○子供たちが、学ぶ喜びを実感できる学校 ○自ら考え、主体的に学ぶ子供 ○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子供 ○心身ともに健康で、活力のある子供 ○人権感覚を磨き、子供を大切にする教師 ○常に向上心を持ち、指導力向上に努める教師 ○公務員としての自覚をもち、信頼される教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学ぶ楽しさを実感できる授業改善の推進 日常の指導の充実	基礎的・基本的な学習内容の確実な定着	○指導と評価の一体化した授業 ○タブレット端末を活用した授業実践 ○学力調査の結果の分析及び授業改善 指導力向上研修の充実	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.5	4 : 90%以上の児童が授業が分かったと回答 3 : 80%～90%未満の児童が授業が分かったと回答 2 : 70%～80%未満の児童が授業が分かったと回答 1 : 70%未満の児童が授業が分かったと回答	4	○指導と評価の一体化を意識した指導を行った。 ○タブレット端末を活用して学習の振り返りやまとめを行った。 ○「分かる・できる」を実感できるように導入・振り返りの充実を図った。	○先生方の指導が意識化され充実している。 ○昨年度よりもタブレット端末を利用した授業が多く見られた。	3.7	○学校全体での計画的な朝学習の実施 ○家庭学習の充実に向けての児童・保護者への啓発方法の工夫 ○タブレット端末の更なる活用に向けて今年度の実践の伝達 ○個に応じた学習支援の工夫
			読書に関する指導や読書の習慣化への取組を日常化した読書活動の充実	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	2.8	4 : 95%以上の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答 3 : 85%～90%未満の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答 2 : 80%～85%未満の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答 1 : 80%未満の児童が1～2時間以上の読書をしていると回答	1	○朝読書や図書の時間を使って読書に取り組んだ。 ○定期的な意識調査ができなかった。	○読書へ主体的に取り組むには、習慣化が大切なので頑張ってほしい。 ○環境整備(廊下等への一覧の掲示等)がもっとあるといい。 ○読書活動に対して積極的な努力が見られる。	1.6	○本の紹介や読み聞かせの時間の確保 ○授業と関連のある本の教室への配置や並行読書の実施 ○意欲を向上させるような読書カードの工夫
			多様性に応じた指導、インクルーシブ教育の推進	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.4	4 : 90%以上の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 3 : 80%～90%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 2 : 70%～80%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答 1 : 70%未満の児童が授業にすすんで取り組んでいると回答	4	○校内委員会で情報共有・共通理解を図り組織で対応した。 ○特別支援教室と連携して対応した。 ○黒板点・構造化した授業づくりを心掛けた。 ○ユニバーサルデザインを意識した授業・環境づくりに努めた。	○校内委員会の充実が感じられる。 ○教室のユニバーサルデザインの視点から黒板の左側に「今日の予定」があるのは、気が配る。	3.7	○障害理解教育の全学年での実施 ○障害理解の研修への参加 ○全校での共通したユニバーサルデザインを意識した環境整備
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いの中で、子供の内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと「特別の教科 道徳」の授業改善と充実	○教職員同士による授業观摩 ○道徳的価値や内容項目を明確に、児童の定着を図る ○年間指導計画の確実な実施 ○全教育活動を通じた道徳教育の充実	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.0	4 : 90%以上の児童が自分や友達を大切にしていると回答 3 : 85%～90%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 2 : 80%～85%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答 1 : 80%未満の児童が自分や友達を大切にしていると回答	4	○道徳的価値や内容項目を意識した振り返りを行っている。 ○授業の参観を十分にすることができなかった。 ○年間指導計画に基づき授業を実施した。	○年間指導計画に基づいた授業の充実が感じられた。 ○児童の姿容を同見取っているのが知りたい。	4	○道徳教育推進教師を中心に全学年での全体・年間計画の見直し ○計画的な教職員同士による授業参観の実施
			いじめの未然防止と早期発見、早期対応を推進し、安全で安心な学校の実現	4 : アンケート実施後の個別対応100% 3 : アンケート実施後の個別対応95% 2 : アンケート実施後の個別対応90% 1 : アンケート実施後の個別対応85%	3.9	4 : 不登校(傾向を含む)人数0人 3 : 1人 2 : 2人 1 : 3人	3.3	○スクールカウンセラー、家庭と連携し、丁寧な個別対応を行った。 ○未然防止・早期発見と迅速な対応に努めた。 ○日々の児童の様子の変化を見逃さないように努めた。	○不登校の人数の少なから学校の対応への努力が感じられる。	3	○確実な保護者との情報共有と連携・協力、丁寧な児童への支援の継続 ○関係機関との連携・協力を含んだ組織的な対応
			学校行事等を通して異学年間の交流を深め、豊かな人間性の育成	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.3	4 : 90%以上の児童が学校が楽しいと回答 3 : 80%～90%未満の児童が学校が楽しいと回答 2 : 70%～80%未満の児童が学校が楽しいと回答 1 : 70%未満の児童が学校が楽しいと回答	4	○縦割り班活動が毎週行われたことで異学年との交流が活発になった。 ○縦割り班活動の前後に活動の意義を考えさせたり、振り返らせたりした。	○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。 ○縦割り活動が活発なのはいい取組だと思う。 ○異学年で挨拶する様子が多く見られるようになった。	4	○各学年で行った体験活動の一覧の作成 ○今年度の縦割り班活動の成果と課題の検証した改善策の作成 ○学級活動等での異学年交流の実施
健やかな体	様々な運動を体験させて、その特性に触れた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	○休み時間の外遊びの奨励 ○運動に親しみやすい環境整備	4 : 毎週子供たちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上 3 : 2回 2 : 1回 1 : 0回	2.9	4 : 90%以上の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 3 : 80%～90%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 2 : 70%～80%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答 1 : 70%未満の児童が遊んだり体を動かしたりすると回答	3	○児童への外遊びへの声掛けを行った。 ○一緒に遊びコミュニケーションを取った。 ○他の対応等で一緒に遊ぶ機会があまりもなかった。	○縦割り遊びを充実させ、活発化を図ってはどうか。 ○児童の自己有用感を育むために今後も継続してほしい。	3.7	○係活動でのクラス遊びの推進 ○運動集会・運動週間等での運動の幅が広がるような取組の計画的な実施
			年間を通した体力向上への取組(「元気アップガイドブック」等の活用)	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	2.6	4 : 90%以上の家庭が体力向上に満足と回答 3 : 80%～90%未満の家庭が体力向上に満足と回答 2 : 70%～80%未満の家庭が体力向上に満足と回答 1 : 70%未満の家庭が体力向上に満足と回答	1	○児童が楽しんで取り組める授業を心掛けて行っている。 ○めあてを毎回提示し、ねらいを明確にして授業を行っている。 ○「元気アップガイドブック」を十分に活用できていない。	○体力向上に向けての個人目標の設定が大切だと思う。 ○折を見る度に外遊びを奨励する。 ○主体的に取り組ませる工夫が必要である。	2.3	○「元気アップガイドブック」の授業や休み時間等での計画的・継続的な活用 ○体力向上への保護者会・学年便り等での家庭への協力依頼 ○運動委員会の活動による体力向上への取組の充実
			食育の充実	4 : 年間で食育に関する授業の実施3回以上 3 : 2回 2 : 1回 1 : 0回	3.3	4 : 年間の残菜率7% 3 : 年間の残菜率8% 2 : 年間の残菜率9% 1 : 年間の残菜率10%	4	○栄養教諭による食育の授業を各学年で実施した。 ○ランチルーム使用時に栄養教諭による食育の指導を行った。	○残菜率7%は、素晴らしい。 ○残菜率の低さから食育の効果がうかがえる。	4	○保健等の授業と栄養教諭による食育の授業を関連付け ○日々の給食指導の充実 ○新しくなる調理場の見学の実施
輝く未来	人権尊重の精神を基調として心身ともに健康な児童の育成を目指し、自他の大切さを認め、人権課題について学び、権利と義務、自由と責任についての認識を深める。また、児童が未来を生き抜く力の育成	一人一人のよさを生かし、意欲とまとまりのある学級集団づくり	○学級満足度調査(Q-1)の結果を有効に生かした授業改善 ○学級満足度調査(Q-1)の結果を有効に生かした学級づくり ○学級満足度調査(Q-1)の結果を有効に生かした課題の把握・改善 ○学級経営の振り返り・評価・改善	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.1	4 : GUの結果で各学級の要支援群0人 3 : 1人 2 : 2人 1 : 3人	3	○心理士からのフィードバックを生かし、適切な支援を行った。 ○課題や実態の把握に生かすことができた。 ○児童理解の一助とすることができた。	○意義ある学級づくりが行えている。 ○児童理解は、大切なので十分に生かしてほしい。	3.3	○結果の全体での共有と全校としての支援方法の共通理解 ○次年度への効果的な支援方法等の確実な引き継ぎ
			学級活動を中心に、全教育活動におけるキャリア教育の充実	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.5	4 : 90%以上の児童が得意・ものを考えたと回答 3 : 80%～90%未満の児童が得意・ものを考えたと回答 2 : 70%～80%未満の児童が得意・ものを考えたと回答 1 : 70%未満の児童が得意・ものを考えたと回答	3	○学校生活のルールを適宜確認し、指導した。 ○学級活動の中でみんなが参加できる取組や全員が楽しめる工夫について考える機会を設けた。	○キャリア教育は小中学校9年間を見通した計画をつくりたい。 ○学校生活のルールの適宜確認し、指導することが定着には必要である。	3.3	○3年間での特別活動の研究の成果を生かした日常の指導での実践 ○児童の実態把握と児童との関係づくり
			保護者・地域と連携し、様々な活動を通して、将来への希望をもたせる	4 : 4項目全て取り組むことができた 3 : 3項目は取り組むことができた 2 : 2項目は取り組むことができた 1 : 1項目は取り組むことができた	3.1	4 : 90%以上の児童が将来について考えたと回答 3 : 80%～90%未満の児童が将来について考えたと回答 2 : 70%～80%未満の児童が将来について考えたと回答 1 : 70%未満の児童が将来について考えたと回答	3	○必要に応じて家庭への連絡を行い面談を実施した。 ○スクールカウンセラーや心理士との情報共有を行った。 ○地域人材を活用した取組ができなかった。 ○PTAの活動に協力・参加できなかった。	○コロナが明けて地域行事とどう連携するかが課題である。 ○地域人材の活用への取組を知りたい。 ○PTA、地域と学校行事との関わり方を工夫して活発にしたい。	3.3	○日々の様子が伝わるような保護者会の内容の工夫 ○PTAの年間の活動予定の把握 ○地域人材の発掘と一覧の作成